

■発行■
2009年7月

vol.13

ファルマバレーセンター
E-Mail mail@fuji-pvc.jp
URL www.fuji-pvc.jp

「富士山麓から世界へ ～ファルマバレーは、いま!～」



〒411-8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪1007 TEL055-980-6333 FAX055-980-6320
県立静岡がんセンター研究所1階

ファルマバレーから新製品 がん患者のQOLを向上するための口腔ケア製品を共同開発



■大勢の関係者を前に行われた静岡がんセンター大田医師の発表



■挨拶をする日本歯科医師会の大久保会長



■疾患治療に伴う口腔ケアのために開発された
バトラー口腔ケアシリーズ

静岡がんセンター、静岡県歯科医師会、サンスター(株)は、2006年5月に締結した包括的共同研究協定に基づき、今年6月、がん治療に伴う口内炎や口腔乾燥などの口腔トラブル時にも使用できる口腔ケア製品を開発した。

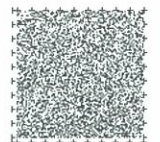
抗がん剤治療や口の周囲の放射線治療が開始されると、口腔粘膜が炎症状態となり「口の中がひりひりする」「粘つく感じがする」など不快な症状を感じる。そのため、歯みがきにも刺激を感じるなど口腔ケアがおろそかとなりがちだった。開発された製品は、こうした不快症状のある場合でも粘膜への刺激がほとんどなく、がん治療の間も口腔ケアを実施することができるため、患者の口腔衛生環境が維持されQOLが向上する。

開発にあたっては、歯科医師・歯科衛生士に協力を依頼し、がん患者が求めている口腔ケア製品を調査した。その結果、①口の乾燥を和らげる②口腔内の粘膜に刺激がない③口の中がさっぱりする—の3点に着目した研究が進められ、5種6品目のシリーズが開発された。

6月16日、帝国ホテルで行われた共同記者会見では、前

静岡県歯科医師会長で、現在日本歯科医師会会長の久保満氏が挨拶を行ったほか、静岡がんセンターの大田洋二郎口腔外科部長が、がん患者特有の口腔内環境や専門ケアに有用な器具などを説明。静岡県歯科医師会の飯嶋理会長は、県内の医科歯科連携の実例と課題について、また、サンスターの濱田和生社長と同社研究開発部西田美恵子シーズ開発グループ長より、製品の開発経緯や特長などの説明があった。

開発された製品は、すでに静岡がんセンター売店で販売されており、今後は、県内の県歯会員診療所でも販売される予定。がん患者以外にも、口腔乾燥などのトラブルをもつ高齢者の口腔ケアに使用できるため販路の拡大が期待される。





■医療機器開発の実践的カリキュラムが行われる沼津高専

医療分野への参入を後押し

ファルマバレープロジェクトから成果品が続々と誕生する中、地元を中心に同プロジェクトや医療分野への参入を望む声が高まっている。こうした中小企業を支援するための各種施策を紹介する。

即戦力の医用機器開発エンジニアを養成

沼津工業高等専門学校は、県東部の中小企業を対象に「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」を10月から開催する。これは、沼津高専と県が文部科学省「地域再生人材創出拠点の形成」事業に申請し、採択されたもの。補助金総額2億5000万円、医療機器開発の中核となる技術者を5年間で32人以上育てるのが目標だ。受講期間は2年間、初年度の募集人数は8人と少数だが、質の高い講義、実習を行い、幅広い知識と専門性を兼ね備えた即戦力の技術者養成を目指している。



■「自社の強みを活かし、異業種参入に挑戦してほしい」と語る沼津高専の柳下校長

カリキュラムでは、医療機器分野に参入するために必要な薬事法などの法的知識や品質・安全工学、臨床医学・工学の基礎を学ぶ。そのため、沼津高専だけでなく、東海大学開発工学部、薬事



■講座は大きく、医用基礎技術コースと医用先端技術コースの2段階で行われる。医用基礎技術コースでは、薬事申請・関連法規や臨床医学・臨床工学をはじめ、医用品質・安全工学、医用材料加工技術などが学べる。医用先端技術コースは機器開発を専門家とともに実践するプログラムだ。

法関係機関、産業支援機関、臨床機関、大手医療機器メーカーなど多彩な講師陣が顔をそろえる。開講にあわせ、沼津高専は新たに血流測定機器などの実習設備も導入した。また、2年間のうち最後の半年は、受講する企業の技術力を活かした開発実習を行う。

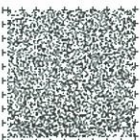
医療機器分野へ参入を目指す企業にとって、必要な知識、技術をトータルで習得でき、沼津高専や東海大学と共同研究に近い形で開発実習が行えるのは大きなメリット。沼津高専の柳下福蔵校長は「既存のものに新し

いものを吹き込み、新たな富、価値を創造するイノベーションが地域の発展には不可欠。その具体策である今回のプログラムには、産学官の密接な連携のもと理想的な環境が整った。ぜひ、本気で医療分野に進出したい、また、既に取り組み始めている企業からの参加を期待している」と語る。

医療分野という新たなフロンティアへの門戸が開かれた今回の取り組み。意欲ある中小企業に大きな福音となるだろう。

富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム

- 1 受講料 無料
- 2 募集期間 平成21年7月27日(月)～平成21年9月3日(木)
詳細は募集要項 (URL: <http://www.numazu-ct.ac.jp/>) をご覧下さい。
- 3 問合せ先 沼津工業高等専門学校
「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」事務局
TEL: 055-926-5856 / FAX: 055-926-5700
E-mail: josei@numazu-ct.ac.jp



検討会議やセミナーを開催

このほかファルマバレープロジェクトでは、医療機器開発を行う中小企業支援を充実する。本年度、新たに設けられた支援策は「医療機器等開発テーマ実現化検討会議」と「経営者

向けセミナー」だ。

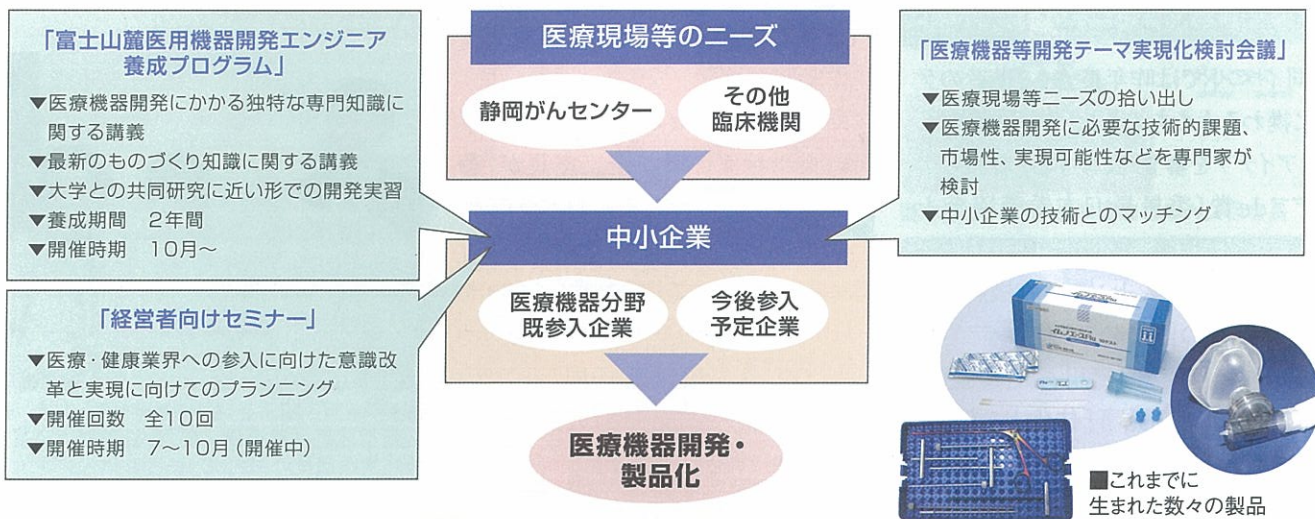
前者は、中小企業が製品開発に円滑に取り組めるよう、医療現場から収集したニーズを専門家が市場性、技術的課題、法的要件などを検討、整理し、中小企業とのマッチングを行う。後者は、医療・健康産業に参入を希望する中小企業の経営者や管理

者向けに、意識改革と実現に向けた戦略などを解説する。

いずれも製造業を中心とした企業の医療分野への参入を後押しし、地域経済の活性化を図るのが目的だ。

問い合わせはファルマバレーセンター企画部(電055-980-6333)へ

図 中小企業に対する新たな支援策(21年度)



遺伝研創立60周年

～さらなる地域貢献を

世界的に有名な生命科学の研究拠点、三島市谷田の国立遺伝学研究所が創立60周年を迎えた。6月1日の記念式典を皮切りに、地元で展示会や講演会などの記念事業が行われている。

遺伝研は1949年に文部省(当時)の所轄機関として現在の場所に開設された。以降、数多くの優れた研究実績によって常に世界の生命科学分野をリードする。「生命科学における先端



■「地域だけに固執せず、広く世界にも目を向けてほしい」とファルマバレープロジェクトにエールを送る広瀬特任教授

研究とそのための基盤整備、人材の養成、また、これらをもとにした共同利用、研究の促進」を使命に掲げ、60周年を機に「地域に開かれた遺伝研」を目指す。

ファルマバレープロジェクトでも、これまでにバイオ関連分野の人材育成を図る「バイオインフォ

マテイクスセミナー」への講師派遣や、地域の大学・研究機関、企業などが連携し新製品の開

発を目指す「都市エリア産学官連携促進事業」で3つの研究テーマを担当するなど、常に重要な役割を担ってきた。

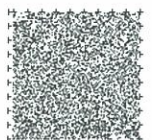
同研究所の広瀬進特任教授は「私たちの基礎研究が製品化に結びついた都市エリア事業には大きな手応えを感じている。ファルマバレープロジェクトに参画し、地元研究機関や企業とのネットワークも広がった。今後もこうした機会を活用して地域貢献を図りたい。」と語る。

■60周年を迎えた遺伝学研究所



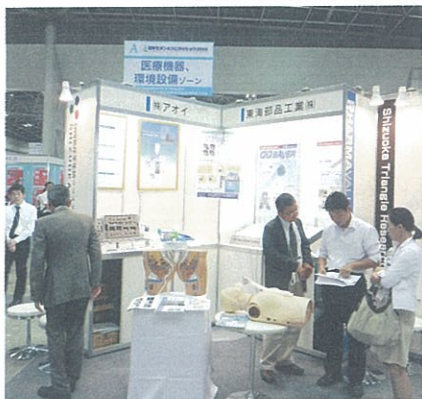
60周年記念事業

- ・「遺伝研展」(7/5～9/27 三島市郷土資料館)
- ・「市民公開講演会」(9/19 市民文化会館)



国際モダンホスピタルショー2009に初出展

全国の医療関係者に、プロジェクトと成果をPR



■多くの来場者が集まった静岡新産業集積クラスターのブース

「国際モダンホスピタルショー2009」が7月15～17日、東京ビッグサイトで開催された。県はファルマバレープロジェクトを中心とした静岡新産業集積クラスターの成果等をPRするため、初めて出展した。

ブースにはファルマバレー関連企業の4社(株)アオイ、(株)タウンズ、東海部品工業

(株)、(株)ホリックス)がファルマバレーから生まれた成果品を出展したほか、フーズ・サイエンスヒルズから(株)マルハチ村松も参画した。会場には病院、診療所、医療機器メーカーなどから約7万6千人が来場し、熱気にあふれた。県ブースにも多くの方々が訪れ、成果品の商談も行われた。

ちょんまげ君が「第2回看護のアイデアde賞」に入選

同イベントでは昨年度から、患者のケアに携わる人たちのさまざまな改善や工夫、アイデアを審査・表彰する「看護のアイデアde賞(委員長:日本看護協会永池京子常任理事)」を開催。2回目となる今回は、静岡がんセンターの松見しのぶ看護師長の「ちょんまげ君(一時的下大静脈フィルター固定用具)」が全66アイデアの中から見事「佳作」に入選した(グランプリ1点、準グランプリ2点、

佳作3点)。

また、17日にはセミナーが行われ、県新産業集積室の増井浩二室長が「静岡新産業集積クラスター」について解説したほか、松見看護師長がちょんまげ君の開発経緯を発表。受賞したアイデアはイベント特設コーナーで実物展示されたほか、作品紹介冊子・同ショーのホームページでも広く紹介され、ファルマバレーのPRに大きく貢献した。



■受賞を喜ぶ関係者(左から静岡がんセンター研究所楠原地域資源研究部長、松見看護師長、青木看護部長)

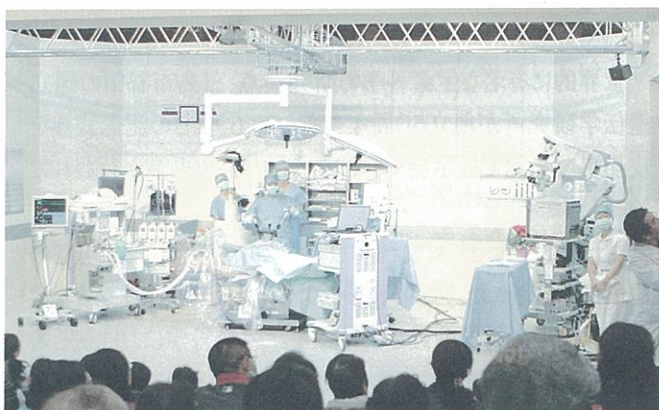
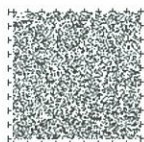
Coming Soon

医療を聞く・見る・触れるー「メディメッセージ2009」

医療機器の展示や実演、体験を通じて「がん」「脳卒中」「心筋梗塞」について学ぶイベント「メディメッセージ2009」が開催される。

これは、地域住民とコミュニケーションを図り、信頼の高い医療環境を目指すとともに、日本人の死因の多くを占める「がん」「脳卒中」「心筋梗塞」に関する情報を提供し、予防医療や早期治療に対する地域意識を高めることが目的。さらに、子どもたちが医療技術に触れ、医療者と出会う機会を設けることで、未来の医療分野の担い手育成につなげる。

会場では、手術室の再現や医師による模擬手術、救急車の展示や子どもたちの記念撮影コーナーのほか、ファルマバレープロジェクトでの開発製品や取り組みなど地域産業についても紹介する。



■手術デモを真剣に見入る来場者(写真は昨年の模様)

と き 9月12日(土)・13日(日)
両日とも10時から16時30分
会 場 キラメッセ沼津 入場無料
問合せ メディメッセージ2009実行委員会事務局
(ファルマバレーセンター内)
電 話 055-980-6333